

崇徳天皇

崇徳天皇（1119–1164）は、伝説の神武天皇から始まる伝統的継承順位によれば、日本の第 75 代天皇でした。父の退位後、3 歳で即位し 1141 年まで統治しましたが、最も知られているのはその治世後に起こった出来事です。崇徳天皇の父である鳥羽上皇（1103–1156）が亡くなった時、その息子たちとそれぞれの派閥の間に勢力争いが勃発しました。崇徳天皇はこの争いに敗れ、弟の後白河天皇（1127–1192）によって讃岐地方（現在の香川県）へと追放されます。瀬戸内海を超えて、崇徳院は現在の坂出市へと渡っています。坂出市内とその周辺には崇徳院ゆかりの地とされている場所がいくつもあり、その 1 つに雲井御所があります。ここで、崇徳院は配流の最初の 3 年を過ごしたと言われていています。その後に移ったのが、もう 1 つのゆかりの場所とされている木ノ丸殿です。ここには、現在は鼓岡神社があります。

木の丸殿で過ごした期間、崇徳院はその時間を写経に捧げたと言われていています。首都だった京都へいつの日か戻ることを願いながら、宮廷の赦しを得るのに役立つと信じて、崇徳院はその信心深い行いに 3 年間で費やしました。京都周辺の有力な寺の 1 つへの奉納か、あるいは亡くなった父へ捧げたいことを願って、崇徳院は写経を都へ送っています。けれども宮廷は、有罪判決を受けた者からの文書の受け取りを拒否し、写経は送り返されました。それに打ちのめされた崇徳院は健康を顧みなくなり、京都を再び見ることなく亡くなりました。その控えめな墓は、高松市と坂出市の間にある、白峯山の白峯寺にあります。坂出には、崇徳院を神として祀る白白峰宮、そして茶毘に付すまでその体が漬けられたとの言い伝えがある八十場の霊泉もあります。